



# アートする地域の可能性

2018 **05月15日** 15:30-19:00



会場：北陸先端科学技術大学院大学 敷田研究室

「1990年代以降、日本の各地で芸術祭が開かれるようになりました。芸術祭はアートの完成だけではなく、地域づくりや地域の経済的活性化が目的です。また都市部だけではなく、地方の地域でも地域づくりを目指した芸術祭が開かれます。石川県でも、「奥能登国際芸術祭」が昨年秋に珠洲市で開かれていました。この芸術祭は、珠洲の魅力アーティストが再発見するために珠洲内外のサポーターを含め、多くの関係者と予算を使って実施されました。

そこで、この研究会では、都市と地方の芸術祭を比較しつつ、芸術祭の評価や地域活性化の効果を高める方策やプロセス、その是非など含め「芸術祭の評価」について議論します。



参加申し込み：JAIST 敷田 (shikida.Asami@jaist.ac.jp) まで

【解題】 15:30-15:35

「アートによる地域づくりと地域づくりのためのアートの可能性」  
敷田麻実（北陸先端科学技術大学院大学知識マネジメント領域）

【セッション1】 15:35-16:05（発表15分）

「奥能登国際芸術祭の地域への影響」  
王 雅蘭（オウガラン）

（北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科 知識科学系 M2）

【セッション2】 16:05-16:45（発表20分）

「奥能登国際芸術祭の経済効果とその評価」

渡辺敏明（北陸先端科学技術大学院大学） 米田 亮（株式会社計画情報研究所）

【セッション3】 16:45-17:30（発表25分）

「芸術祭評価のあり方の検討-札幌国際芸術祭の評価を手掛かりとして」

三宅美緒（北海道大学大学院文学研究科 博士課程）

【セッション4】 17:30-19:00

ディスカッションアンドトーク（軽食付き、フリー退席）

モデレーター

坂村圭（北陸先端科学技術大学院大学知識マネジメント領域 助教）

■ 渡辺敏明（北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科 博士課程1年）

福井県出身。テレビ番組（東尋坊での自殺防止活動取材したドキュメンタリー番組から地域の情報番組など）を中心に映像制作に携わる。現在は北陸先端科学技術大学院大学・敷田研究室にてフィルムコミッションと地域づくりについて研究をしている。

■ 王 雅蘭（オウガラン）（北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 修士2年）

中国出身。北陸先端科学技術大学院大学修士課程2年。珠州市の国際芸術祭のサポーターや芸術祭開催による地域の公共施設の再利用に興味を持って研究をしている。

■ 三宅美緒（北海道大学大学院文学研究科）

広島県出身。岡山県内で勤務時に、瀬戸内国際芸術祭のボランティアを経験。ボランティアでの体験がきっかけとなり、北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院の修士課程に進学し、芸術祭と地域づくりについて考え始める。

■ 敷田麻実 北陸先端科学技術大学院大学 知識マネジメント領域

石川県水産課勤務の後、金沢工業大学環境システム工学科教授、北海道大学観光学高等研究センター教授を経て、2016年から北陸先端科学技術大学院大学知識マネジメント領域教授。専門はエコツーリズムと地域マネジメント。

■ 坂村圭 北陸先端科学技術大学院大学 知識マネジメント領域

2017年から北陸先端科学技術大学院大学知識マネジメント領域助教。専門は都市計画とコミュニティデザイン。自然資源と社会のつながりをもとに地域活性化に向けた研究とまちづくり活動を実践している。